



東風

さいたま市立与野東中学校 学校だより

No.2 平成31年4月26日発行

いよいよ「令和」がスタート

校長 佐藤 和男

「平成」が、終わるまで、今日を含めてあと5日になりました。大きな自然災害が発生し、尊い命が数多く失われた平成に代わって、令和では、穏やかなそして平和な日々が続くことを願わずにはられません。

この春入学した1年生も中学生として1ヶ月が過ぎようとしています。部活動も本入部となり、学習面や生活面で中学生らしさがだんだん表に出てきました。さらに、与野東中生らしく、立派な2、3年生を見習って、何事にも積極的にチャレンジしてほしいと思います。また、4月20日実施の授業参観・保護者会、4月24日実施の部活動保護者会にはご多用にもかかわらず、大勢の保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。保護者や地域に開かれた学校を推進するために、今後もこれらの機会を通して、本校の教育活動や子どもたちの様子を見ていただきたいと思います。

「可愛くば 五つ教えて 三つほめ 二つ叱って 良き人にせよ」

これは、江戸時代後期の農政家、思想家である二宮尊徳（金治郎）の言葉です。薪を背負いながら本を読む姿の銅像が有名です。実は、私が卒業した小学校にもこの二宮尊徳さんの銅像が立っていました。その姿からは、日本人の「謙虚さ」「勤勉さ」などが連想されます。

さて、上記の言葉は、子どもが可愛かったら、五つ教えたら三つはほめて、叱るのはせめて二つぐらいにしておきなさいという意味です。さらに、子どもが可愛いと思ったら、叱るときでも、一呼吸おいて、まずよいところを三つみつけて、それをほめる。そして、そのあとの二つぐらいの割合で、叱りなさい。などとも解釈されています。子育てについて、大きなヒントになる言葉です。

「子どもはほめて育てる。」これは、現在の子育ての主流になっています。しかし、ほめてばかりでは、健全な人格の形成につながらない場合があります。三つほめて二つ叱る、このように、子ども一人ひとりの個性を尊重し、長所を伸ばす中で、さらに、いけないことはいけないという姿勢を、私たち大人がしっかりと教えなければなりません。

時には「ならぬものは、ならぬ。」が大切です。

明日からの10連休が終わると、1学期の大きな学校行事である東風体育祭(5月11日・土)、1年生にとって初めての中間テスト(5月20日・月)、さらに6月に入ると3年生にとって最後となる学校総合体育大会が予定されています。これらを通して、共に「学びあい」「助けあい」「励ましあい」「認めあい」「支えあい」等に取り組む、「あい」があふれる与野東学校、与野東中生になってほしいと願っています。

今後も保護者の皆様や地域の皆様との連携を一層深めて、充実した教育活動を進めて参りたいと考えております。

ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

